

第10巻 第1号 (通巻第18号) 2021年11月発行 ISSN 2187-0292

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 10, Number 1

2021

特集

第49回 埼玉透析医学会 学術集会
プログラム・抄録集

第12回 埼玉アクセス研究会 学術集会
プログラム・抄録集
PROCEEDINGS-2021



埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 10, Number 1

2021

特集

第49回 埼玉透析医学会 学術集会
プログラム・抄録集

第12回 埼玉アクセス研究会 学術集会
プログラム・抄録集
PROCEEDINGS-2021

埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

INDEX

巻 頭 言	1
-------------	---

第49回埼玉透析医学会学術集会 プログラム・抄録集

参加者へのご案内とお願い	5
発表論文原稿執筆要項について	7
タイムテーブル	9
プログラム	10
抄 録	
特別講演	13
教育講演	15
指定講演	19
一般演題	25
協力企業一覧	28

第12回埼玉アクセス研究会学術集会 プログラム・抄録集

プログラム	31
抄 録	
ベーシック講座	35
共催セミナー1	37
共催セミナー2	43
共催セミナー3	45
一般演題	53

第12回埼玉アクセス研究会 学術集会 ROCEEDINGS-2021

proceedings 目次	63
VAトラブルバスター	65
血管内治療の新しい潮流	72
スタッフ企画： メディカルスタッフが考える VA 管理の取り組み	77
一般演題	98

学術集会開催記録	119
2021年施設名簿	120
埼玉透析医学会会則	122
索 引	125

次回開催のご案内

第13回 埼玉アクセス研究会学術集会

会 期：2022年7月31日(日)

会 場：大宮ソニックシティホール 市民ホール
〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目7-5
TEL：048-647-4111

会 長：中川 芳彦(関越病院)

演題登録方法：オンラインによる演題受付とします。

埼玉透析医学会 HP (<http://www.ssdt.jp/>) より、
「第13回埼玉アクセス研究会学術集会のお知らせ」のページを
ご覧ください。「演題登録・修正」から演題登録をしてください。
よろしくお願い致します。

募集期間：2021年4月1日～5月下旬頃

詳細は後日アップされる埼玉透析医学会 HP をご覧ください。

共 催：埼玉透析医学会

事 務 局：埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター
小川 智也

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981

TEL：049-228-3523

FAX：049-226-6822

E-mail：jinkojin@saitama-med.ac.jp

巻 頭 言

第49回埼玉透析医学会学術集会・総会に寄せて



埼玉透析医学会
会長・大会長 松村 治

会員ならびに関連各位の皆様におかれましては、コロナ禍で長期間に渡る緊張の日々をお過ごしであったとお察し申し上げます。本年7月の東京オリンピック・パラリンピック2020開催と同時に起こった第5波の大きな流行も漸く治まり、これからはウイズ・コロナのフェーズに入ったと思われまます。

昨年の本会は、新型コロナウイルス感染症パンデミックのため中止とさせて頂きました。今年は学術集会の開催を第一に考え、幹事の先生方のご意見も伺いWebによる開催としました。また、準備期間が短いため大会長は会長である私が務めさせて頂き、竹田徹朗先生の大会長は来年に順延して頂きました。会員の皆様には、連絡が行き届かずご迷惑をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。

Webによる学会・研究会は定着しつつありますが、本会としては初めてのWeb開催であり事務局の負担は大きなものとなりました。幸いなことに埼玉アクセス研究会が7月25日Web開催されており、埼玉アクセス研究会事務局には全面的なご協力を頂きました。改めて両事務局の方々に深謝申し上げます。

学術集会のテーマを「埼玉県における腎代替療法の現況と課題」として、講演は全て埼玉県内でご活躍の先生方をお願い致しました。ご多用の中お引き受け頂きました先生方には心より御礼申し上げます。各先生方のご講演を拝聴することで、現状把握と今後の課題がより明確になるものと思います。一般演題の応募が予想以上に少なく残念です。ご存知とは思いますが、学会発表後に埼玉透析医学会誌にプロシーディングが掲載されると原著論文となります。施設会員の先生方には来年以降奮って応募頂きたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本学術集会の開催にあたり多大なご援助・ご協力を頂いた皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。埼玉透析医学会のさらなる発展のために今後もご支援の程をお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様方の益々のご活躍・ご発展を祈念申し上げます。

2021年11月吉日

49th Annual Meeting of
Saitama Society for
Dialysis Therapy

Abstract
2021

第49回埼玉透析医学会学術集会

- 大会長：松村 治（医療法人朋社会 南古谷クリニック）
- 日 時：令和3年12月5日（日） 10:00～
- 会 場：Web 開催

事務局：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
埼玉医科大学病院 腎臓内科
TEL：049-276-1611 / FAX：049-295-7338
URL：http://www.ssdt.jp
E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

参加者へのご案内とお願い

■開催概要

- | | |
|------------|---------------------------------------|
| 1. 会 期 | 令和3年12月5日(日) |
| 2. 開催形式 | オンライン開催 |
| 3. 参加受付 | 事前登録制 |
| 4. 開演時間 | 9:30～16:00 |
| 5. 参加費 | 1,000円(事前徴収) |
| 6. 参加証・領収証 | 12月5日～12日まで Web 会場専用 HP よりダウンロード頂けます。 |

■当日の Zoom に関して

1. 名前の表示を「お名前_ご所属」にしてください。
2. 講演中は音声が入らないよう、音声はミュートに設定してください。
3. 質問等がある場合は、Zoom のカメラとマイクを ON にして、座長にお伝えください。座長より指名されてから、ご質問ください。
4. 個別に座長や演者の先生に質問がある場合は、講演中に会場係に Zoom のチャットでお知らせいただくか、講演終了後に退出しないでお待ちください。教育講演・指定講演・特別講演終了後 Zoom のブレイクアウトセッションにご案内いたします。
5. Zoom のチャット機能はご自由にお使いいただけます。相手を指定してチャットを送ることも可能です。お待ち合わせなどにご利用ください。
6. Live 配信動画、講演スライド等の録画・録音・撮影・印刷や画面をスクリーンショット等でキャプチャーする行為は一切禁止します。また、無断転用・複製も一切禁止します。

■座長・演者の先生方へ

1. インターネット環境は、Wi-Fi ではなく有線 LAN 環境を推奨いたします。
2. カメラ付き PC をご準備ください。
3. 外部の音を防いだり音質トラブルを避ける為に、マイク付きイヤホンやヘッドセットを推奨いたします。
4. 担当セッションの開始20分前までに、WEB 会場(専用ページ)内の『座長・演者用テスト用回線』にご入室ください。ここでマイク・スピーカー、カメラチェックを行います。チェックが終了しましたら退出いただき、『ライブ配信会場』へ入室ください。
5. 講演中に、画面上にタイマーが表示されるよう設定をお願いいたします。また、タイマーの時間を目安に、進行、講演をお願いいたします。

6. オンラインでの発表は著作権法上の公衆送信にあたるため、ご発表の際に使用されるスライドや、スライド内の映像・音声などのコンテンツは、著作権法上の問題のないものに限るよう、ご注意ください。
7. 受託研究や共同研究の場合は、オンライン学会での発表であることを念のためご確認ください。
8. 当日の発表時に利益相反についての情報開示をお願いいたします。発表の最初か最後に利益相反自己申告に関するスライドを加えてください。後述する「利益相反自己申告に関するスライド例」を参考にしてください。

「利益相反自己申告に関するスライド例」

【スライド例】
発表時、申告すべきCOI状態がない場合

**第49回 埼玉透析医学会
COI開示**

筆頭発表者名 : ○○ ○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

【スライド例】
発表時、申告すべきCOI状態がある場合

**第49回 埼玉透析医学会
COI開示**

筆頭発表者名 : ○○ ○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などとして、

①顧問:	なし
②株保有・利益:	なし
③特許使用料:	なし
④講演料:	なし
⑤原稿料:	なし
⑥受託研究・共同研究費:	○○製薬
⑦奨学金附金:	○○製薬
⑧寄附講座所属:	あり (○○製薬)
⑨贈答品などの報酬:	なし

発表論文原稿執筆要項について

本学術大会でご発表された内容は、埼玉透析医学会会誌(第11巻1号)掲載用の論文として収載して頂くことをお願いしております。下記の会誌投稿に関する内規に承諾していただき、令和4年1月31日(月)までに下記送付先まで E-mail または CD で提出をお願いいたします。

特別講演・指定講演・教育講演

ご発表頂いた講演について総説としてご執賜りたくお願いいたします。

一般演題

ご発表頂いた演題について発表論文としてご投稿下さいますようお願いいたします。

会誌投稿に関する内規

埼玉透析医学会(以下「当会」という)は、「当会」が発刊する「会誌」への投稿に関し、以下のとおり定める。

1. 投稿の種類

「当会」が発刊する「会誌」への投稿は、①埼玉透析医学会および埼玉アクセス研究会の学術集会で発表されたものから、発表論文として論文集に掲載するために投稿するものと、②会誌編集委員会の企画により、投稿を依頼されたものとする。なお、論文は透析医療に関するもの、会員に対し有益な内容で、他誌に発表されていないもの(抄録を除く)あるいは投稿中でないものに限るものとする。また、個人情報保護の観点から容易に個人が特定されないように十分に配慮しなければならない。利益相反がある場合は記載すること。

2. 投稿資格

論文の筆頭著者は原則として「埼玉透析医学会の施設会員」とする。

3. 原稿の作成

- 1) 原則としてパーソナルコンピュータを使用し、文字のみの本文を Word または Text のファイル形式で作成する。
- 2) 文字数は図表を含めず総説は8,000程度、発表論文は4,000程度を目安に作成し、本文には頁をつける。
- 3) ①図表は Word、Excel、Power Point、JPEG、GIF で作成する(写真などは鮮明なものを使用する)。
②掲載は原則的に白黒印刷であるため、カラーで提出される場合は印刷時のコントラストに配慮する。
③図表は本文とは別のファイルを用意し、図表の下に番号を記し、本文中に挿入位置を明示する。
※他誌書から図表を転載利用する場合(自筆も同様)は、著作者ならびに出版元の許諾が必要となる。

4) 文献は主要なもののみ10点以内とし、文中の引用箇所には、半角上付で引用順に1), 2) 3~5)のように記載し、著者4名以上の場合は“…, 他” “…, et al”とする。

① 雑誌の場合 著者名：論文名. 雑誌名 巻：頁(初め-終わり), 西暦年

② 書籍の場合 著者名：論文名. 書籍名(編者名), 頁(初め-終わり), 出版社名, 所在地, 西暦年

③ 誌名を略記する場合 出版雑誌の定める略名を使用し、また外国のものは Index Medicus の略称に準じる。

④ 「孫引き」を避け、必ず原典にさかのぼって出処を明示する。

4. 論文の体裁

表題頁、本文、文献、図表の順にまとめる。

1) 表題頁には①題名、②著者および共同著者(全員フリガナを明記)、③所属施設名、④連絡先(筆頭者の所属、郵便番号、住所、電話番号、FAX 番号、電子メールアドレス)を記載する。

2) 本文はⅠ. 緒言(はじめに、まえがき)、Ⅱ. 研究方法(対象、症例、方法)、Ⅲ. 研究結果(結果)、Ⅳ. 考察、Ⅴ. 結論(結語、まとめ、おわりに)の順序で記述する。

5. 著作権

学会誌の掲載内容(インターネット上で公開する電子媒体を含む)の著作権は、「当会」が保有するものとする。また投稿者は、投稿内容が受理され学会誌に掲載された場合、学会誌掲載内容がインターネット上で公開されることについて了解しているものとし、これによる使用料は「当会」に帰属するものとする。

6. 校正

会誌編集委員の編集後、著者校正を依頼する。

7. 原稿締切

令和4年1月31日(月)必着とする。

8. 原稿の送付先

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

埼玉医科大学病院 腎臓内科内

埼玉透析医学会事務局 宛

TEL : 049-276-1611 FAX : 049-295-7338

URL : <http://www.ssdt.jp> E-mail : jinnai@saitama-med.ac.jp

※原則として送付いただいたメディアは返却いたしませんのでご了解ください。

2021年12月5日(日) WEB 開催

WEB 会場	
Zoom ライブ配信	
9:00	9:00～9:50
9:30	埼玉透析医学会 幹事会
10:00	10:00～10:05 開会の辞 10:05～10:45 一般演題 座長：中川 芳彦(関越病院)
11:00	10:50～11:20 教育講演1 On-line 透析 ～技士の視点から～ 座長：山下 芳久(埼玉医科大学保健医療学部) 演者：安藤 勝信(練馬光が丘病院)
	11:25～11:55 教育講演2 腎移植療法 座長：小川 智也(埼玉医科大学総合医療センター) 演者：徳本 直彦(獨協医科大学埼玉医療センター)
12:00	12:00～12:30 幹事会報告
13:00	12:35～13:20 特別講演 透析患者の新型コロナウイルス感染症対策 座長：松村 治(南古谷クリニック) 演者：雨宮 守正(さいたま赤十字病院)
	13:25～13:55 教育講演3 腹膜透析 座長：竹田 徹朗(獨協医科大学埼玉医療センター) 演者：友利 浩司(埼玉医科大学病院)
14:00	14:00～14:25 指定講演1 一般透析施設での HIV 感染透析患者の受け入れ～受け入れを容易にするための方策は？～ 座長：長谷川 元(埼玉医科大学総合医療センター) 演者：鈴木 裕子(さいたまつきの森クリニック)
15:00	14:30～15:40 指定講演2 高齢者透析 座長：島崎 玲子(さいたま市民医療センター) 岡田 浩一(埼玉医科大学病院) 演者：平原 浩(南古谷クリニック) 猪本 由紀(関越病院) 横田 稚子(埼玉医科大学総合医療センター) 中里 優一(友愛日進クリニック)
	15:40～15:45 閉会の辞・次回大会長挨拶
16:00	

第49回埼玉透析医学会学術集会 プログラム

令和3年12月5日(日)

10時00分 開会

幹事会 9:00～9:50

開会の辞 10:00～10:05

会 長：松村 治(医療法人朋社会 南古谷クリニック)

一般演題 10:05～10:45

座長：中川 芳彦(関越病院)

O-1 当院での災害学習 ～動画で学び・患者と考える～

医療法人蒼龍会 若葉内科クリニック 粕谷 賀津子 他

O-2 On-line HDF 治療における前・後希釈法の違いによる溶質除去能

医療法人朋社会 南古谷クリニック 羽田 秀史 他

O-3 当院透析室における換気状況の検証

医療法人蒼龍会 若葉内科クリニック 中野 智広 他

O-4 日機装社製透析監視装置における BV-UFC 機能の使用経験

埼玉医科大学病院 臨床工学部 田村 駿典 他

教育講演 1 10:50～11:20

座長：山下 芳久(埼玉医科大学保健医療学部)

On-line 透析 ～技士の視点から～

安藤 勝信(練馬光が丘病院)

教育講演2 11:25～11:55

座長：小川 智也（埼玉医科大学総合医療センター）

腎移植療法

徳本 直彦（獨協医科大学埼玉医療センター）

幹事会報告 12:00～12:30

松村 治、友利 浩司

特別講演 12:35～13:20

座長：松村 治（南古谷クリニック）

透析患者の新型コロナウイルス感染症対策

雨宮 守正（さいたま赤十字病院）

教育講演3 13:25～13:55

座長：竹田 徹朗（獨協医科大学埼玉医療センター）

腹膜透析

友利 浩司（埼玉医科大学病院）

指定講演1 14:00～14:25

座長：長谷川 元（埼玉医科大学総合医療センター）

- 1-1 一般透析施設での HIV 感染透析患者の受け入れ
～受け入れを容易にするための方策は？～

鈴木 裕子（さいたまつきの森クリニック）

指定講演2 14:30～15:40

座長：島崎 玲子(さいたま市民医療センター)
岡田 浩一(埼玉医科大学病院)

- 2-1 高齢者透析 —看護師の視点から—
平原 浩(南古谷クリニック)
- 2-2 高齢者透析 —技士の視点から—
猪本 由紀(関越病院)
- 2-3 高齢者透析 —管理栄養士の視点から—
横田 稚子(埼玉医科大学総合医療センター)
- 2-4 高齢者透析 —医師の視点から—
中里 優一(友愛日進クリニック)

閉会の辞・次回大会長挨拶 15:40～15:45

竹田 徹朗(獨協医科大学埼玉医療センター)

特別講演

特別講演

透析患者の新型コロナウイルス感染症対策

雨宮 守正(アメリヤ モリマサ)

さいたま赤十字病院

私が透析患者の新型コロナ感染症患者、入院調整の仕事を県より委託されたのは2020年4月であった。以来1年半以上の時間が経過した。感染症対策を考えるに当たり、感染予防・治療・拡大防止はもとより、私の担当している、すでに感染した患者さんの対応は甚だ重要である。前者には透析に特化したものは比較的少なく、後者は透析特有の問題点を多く抱えている。そこでこれまでの入院調整の経過を共有し、今後の課題について考えてゆきたい。

現在250人を超える透析患者が新型コロナ感染症に罹患し、県調整本部と協力し、7つある県内のブロックを起点とした入院調整を行った。しかし感染拡大に伴い、透析病院のクラスター・病床逼迫・自宅待機など様々な問題に直面した。まずは、この経過を共有したい。

そして、新たな感染拡大に対して確保されている病床はいまだに十分とは言えない。この場を借りて、今後の対応を考えるに当たり、多くの課題や意見をいただければ幸いである。

一般演題

O-1

当院での災害学習

～動画で学び・患者と考える～

○粕谷 賀津子(カスヤ カズコ)、鈴木 利枝、
藤川 飛鳥、大倉 舞、神田 暢子、宮崎 真一、
山下 文子、島 朋子
医療法人蒼龍会 若葉内科クリニック

【はじめに】当院では、2019年より毎年9月～10月を防災・救急月間とし、必要な取組やその見直しを行っており、それにより、患者・スタッフから透析中の地震発生時の具体的な行動について、再確認される機会が増えた。マニュアルで多くの項目を説明するだけでは不十分と考え、ひとつのテーマに焦点をあてて効果的に学んでいく事にした。

【目的】透析中の地震発生時における具体的な行動を学び、安全のために全員が同じ行動を取れるように共通認識を高め、継続して翌年に個別訓練による振り返りを行う。

【対象・方法】院内災害マニュアルに基づき、透析中の地震発生時を想定した身の守り方の動画を作成し、外来透析患者101名・スタッフ25名で個別視聴した。

スタッフにはアンケート、患者には聞き取り調査を実施し、翌年に再確認と個別訓練及び必要時に動画再視聴を行った。

【結果】スタッフは、動画視聴前のアンケートで70%が具体的な行動の知識が曖昧であったが、視聴後は全員が理解でき、翌年の患者への訓練・啓発も可能となった。患者は、動画視聴前94%が具体的な行動を知らないと答えたが、視聴後は95%が理解でき、知りたかった事が分かり良かったという意見などがあつた。翌年の個別訓練実施時は、動画を思い出し、声を掛けながらスタッフと共に再確認した。

【考察】全員が同じ動画を視聴した事で、共通認識が得られ、地震発生時の備えができた。また、動画出演者に馴染みあるスタッフが登場していた事で、より関心が高まり、協力も得られたために動画学習は一定の効果が得られた。ただし、訓練は徐々に記憶が薄れていき、高齢化やADL低下などもあり、実際の状況で実行できるかが不安である。したがって、声掛けする事と繰り返し伝えていく必要があると考えている。

【結語】普段できない事は、災害時も難しい。有事の際災害弱者となる透析患者のために、事前防災計画は重要となってくる。今回は、透析中の地震発生時に焦点をあて訓練を実施したが、今後も防災月間を利用し、できる事から災害対策に取り組み、継続していきたいと考える。

O-2

On-line HDF 治療における

前・後希釈法の違いによる溶質除去能

○羽田 秀史(ハダ シュウシ)、永石 淳、秋葉 耕路、
富塚 弘征、田辺 満、平原 浩、中山 千尋、
河野 里佳、松村 治
医療法人朋社会 南古谷クリニック

【目的】同一症例で On-line HDF の前希釈法と後希釈法それぞれの溶質除去能を実際の治療の中で検討した。

【対象】透析アミロイドーシス、皮膚掻痒症、ムズムズ脚症候群、心嚢水貯留などで前希釈 On-line HDF を施行している4名を対象とした。

症例①：78歳男性、透析歴6年11か月、

症例②：78歳男性、透析歴15年11か月、

症例③：54歳女性、透析歴1年2か月、

症例④：67歳女性、透析歴18年7か月であった。

【方法】症例①②では前・後希釈ともFIX-210Sと250Sの同じ膜を使用し、症例③④は前希釈でMFX-21M、後希釈ではPolyflux-210Hを使用した。

希釈量は前希釈で32～67.5L、後希釈で8～13.5Lであった。

BUN, Cr, $\beta 2$ -MG, $\alpha 1$ -MG の除去率と Alb 漏出量を部分採取法により測定した。

【結果】前・後希釈とも BUN の除去率は80%前後、Cr の除去率は73%前後で差は見られなかった。

$\beta 2$ -MG の除去率は、FIX-S の前・後希釈で共に75%程度で、MFX-M 前希釈で約70%、Polyflux-H 後希釈で約75%であった。

$\alpha 1$ -MG は FIX-S 前希釈で20.8%、後希釈で26.8%、MFX-M 前希釈で-9.6%、Polyflux-H 後希釈では0.4%であった。

Alb 漏出量は FIX-S の前希釈4.1g、後希釈5.0gで、MFX-M 前希釈では検出感度以下で、Polyflux-H の後希釈では1g以下であった。定期血液検査や自覚症状には、変化を認めなかった。

【結語】FIX-S での後希釈 On-line HDF は小分子物質から低分子蛋白まで前希釈法と同等の除去効率を示し、Alb の漏出量も5g前後で抑えられたが、 $\alpha 1$ -MG の除去率は共に20%台と低かった。

MFX-M 前希釈、Polyflux-H 後希釈ともに $\beta 2$ -MG までの除去は良好であったが、 $\alpha 1$ -MG、Alb の除去はほとんど認めなかった。

埼玉透析医学会 会誌

発行日：2021年12月1日

発行：埼玉透析医学会

発行人：松村 治

編集：埼玉透析医学会 事務局

事務局：埼玉医科大学病院 腎臓内科

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

TEL：049-276-1611 FAX：049-295-7338

URL：<http://www.ssdt.jp/>

E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

編集責任者：友利 浩司

編集委員：小川 智也、金山 由紀、佐々木 裕介、
伊佐 慎太郎、村杉 浩

出版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

定価：2,000円＋税